memorandum

The special issue

MASH

HAND MADE

MEMO

( )

MEMO

ずひ　ルパン三世カリオストロの城

ひまな人読んで下さい。映画を見た人、ルパンファンの人読んで下さい。

ダダイズムというのは伝統的なものを否定し虚無無秩序を表現しようとする芸術思想のことです。芸工大に来ると、ガス溶接がうまくなりますよ。決して、ダダをこねるというときのダダのことではありません、全然ばかりでしたね。おなたは多重露出というものをご存知でいますか。まっ正神の芸工大の出品作品を見ましたか。多重露出は簡単にできます。現代用語辞典において溶接はセット離すことのできないものになりました。1度撮り終ったカメラのフィルムを巻き戻して、また撮り直せばよいのです。ガス溶接と電気溶接です。邪馬台国論争をご存知でいますか。溶接には2種類あります。九州の山門にあったか本州の大和にあったかというものですね。なぜ多くの人々がこの問題にひきつけられるかというとこの問題に、パズルめいたところがあるからなんですね。

・あなたはルパン三世映画第2作カリオストロの城を見ましたか。コナンといっしょじゃないかという意見がありますが作っている人が同じなので、これはしかたのないことなのです。それにぼくはまだコナンを見てないので、どの辺がいっしょなのか、今度コナンが再放送されたときは是非みたいと思っています。

・今度のルパンは、前作のマモーが出てくるやつとは全然違ったものでした。テレビの旧シリーズの総決算という感じでありました。そうです。西洋のお城、大時計、ニセ札、美少女これらは昔のルパン三世を形造る重要な要素だったのですよね。

・それぞれのキャラクターについて考えてみると、今回はルパン1人の魅力が目立たように思います。他の人達は完全に脇役に回っていましたね。特に五右エ門は出番が少なかったみたいです。

・不二子はまた顔の変る人で今回のルパンでは、テレビの旧シリーズでも後期の顔をしていました。そのせいか増山江威子さんの声とはどうしても、一致しないんです。こう思っているのは、ぼくだけでしょうか。

・いろいろ書いてきましたが、今回のルパン三世とてもよかったと思います。そして来年度もぜひ、映画でやってほしいと思います。それからテレビの旧シリーズの再放送をそろそろやってもいい頃じゃないかと思っています。

・今年は火の鳥のアニメが映画であるんですよね。これは本当に楽しみですよね。これは本当に楽しみですよね。考えるだけでも胸がワクワクしてきます。それからもう一つ芸工大の6月の学園祭でも、わがアニメクラブはアニメーションの上映をやります。こちらも期待しておいて下さい。

文……森豊

◆翔ル女について

——女たちは翔べるのか？——

70年代末に羊羽んでる女という新語ができた。OLたちが闊歩し、男たちは震かんした。ヒロインが、ヒーローの脇役から、映画の主役になった。マスコミは、こぞって女たちを称賛し、はやしたてる。だが、ほんとうに、女たちは翔んだのか？

世の女たちは、専業主婦、それに対するキャリアウーマンの2種類にわけられるらしい。もちろん、これは結婚して妻となった女たちに関してであるが。専業主婦は、いたげられた女たちで、キャリアウーマンこそ自由に生きる女であり、価値があると、世の評論家たちは言う。（私は、専業主婦という言葉はあまり好きではない。いかにも職業じみており、事務的で、暖かさが感じられないからだ。しかし、ここでは、キャリアウーマンに対する言葉として、あえて使用する。）

某化粧品会社のCMでも、アメリカ人の女性が出てきて、英語でぺらぺらしゃべったあげく、たどたどしい日本語で、「わぁたぁしぃがぁ（私が）じぃゆうなぢぁ（自由なら）わぁたぁしぃの（私の）おっとぉもぉ（夫も）じぃゆうでぇすぅ。（自由です。）」とかなんとか言うのである。どうも、日本のCMには、外人が登場しすぎるのだ。日本人が外人に、特に、白人に対して、精神的（肉体的）コンプレックスを持っていて、すぐ彼らになびいてしまうのは事実だが、国産の商品を宣伝するのに、わざわざ外人をつかう必要があるだろうか？また、ただでさえ日本語が乱れているのに、ハンバーグの宣伝なんかで、アメルイスが「いたぁだぁきぃまぁ～す。」なんて言うから、それを子どもたちがまねをして、より日本語に混乱が生じるのである。CMには、フィーリングも石雁かに大切ではあるが、テレビの言語活動への影響力というものを、もっと考える必要があると思う。

さて、話を本題にもどそう。翔んでる女である妻が自由なら、ほんとうに、夫も自由になれるのだろうか。仕事をしている妻も、仕事をしている夫も、同時にふたりとも、自由になれるのだろうか。社会生活を営む上で、我々はたがいに依存しあって生きている。他人どおしでさえ依存しあっているのだから、結婚という契約をかわした者にとっては、なおさら依存の度合も強くなるのだ。そして、このふたりの間の依存は、ふたりに平等にふりわけられるとはかぎらないのである。どちらかが自由になれば、そのしわよせが他方に来て、彼または彼女は束縛されるのだ。また、我々が、結婚して夫婦となり、家庭という

単位を基盤にして活動するかぎり、家庭に束縛されるのだ。（育児、炊事、洗濯などの家庭生活を営んでいく上で、絶対必要な事をすること。）そして、夫婦のどちらかが、家庭に束縛されないかぎり家庭生活は崩壊するのである。そして、当然の結果として、離婚するのだ。

このように、仕事と家庭の両立はきわめてむずかしい。女が羊羽べば翔ぶほど家庭は崩壊し、離婚率が高くなる。夫婦は、同時に自由にはなれないのである。自由が求められる現代は、自由である事と、離婚しなければならない事とのジレンマに落ち入っているのである。

恋人どおしの時は、自由かもしれない。もちろん、ガールフレンドをデートに誘う時、あるいは合コンや合ハイをする時、男が常にお金を払わなければならない宿命にあることは周知の事である。異性関係において、男は金銭的に拘束される運命にある。

さて、家庭への束縛の中で、もっとも大きな物は、やはり育児である。人間が種族を残してゆく限り、人生の大半を育児に向けなければならないのは当然だ。子どもを育てる事は、何十年もの歳月を要する。（なっとオーバーかもしれないが）。それだけ、人間を、人間として育てるのはたいへんな事なのである。その「たいへんな事」が、女が翔ぶためには、じゃまなのだ。

育児問題などの家庭の事情で、職場を離れる女たちは、口々に、「家庭の犠牲になって仕事をやめなければならなかったの。」と言う。また、新婚の女の先生がクラスの担任になった子どもの親たちは、「勉強が大切な時に、出産のために休まれたんじゃあかないわねぇ。」と言う。子どもを育てることが犠牲なのか？子どもを生む事が勉強よりもつまらない事なのか？仕事や勉強が優先されて、女のもっともすばらしい事、子どもを生んで育てる事が、あまりにも軽視されている。出産、これは、女が神から与えられた特権である。動物たちが、サルがしっかりと子どもをかかえて乳を飲ませる、親犬が子どもをなめてやる時のやさしい眼、卵をだく母鳥の一途さ、母と子のスキンシップ、これほどすばらしい物が他にあるだろうか？人間が、文明を築きあげて、人間らしい生活を追求すればするほど、真の人間らしさがうしなわれてゆくような気がする。育児は決して犠牲ではない、人間としての誇りであり女の特権なのだ。それでは、なぜ、男が子育てをしないのか？という疑問も当然あるだろう。女をおだてて、子どもをおしつけて、責任のがれをするつもりでしょう？と、言われるかもしれない。そう言われてみれば、何と返事をしたらよいのかわからない。ただ、私自身の考えとして、女は、子を生み育てる者という概念があるのだ。動物たちはみな、そうしているからだ。男のエゴね、古い考えね、最低だね、中年ね、そんな考えじゃあ、お嫁さんのきては、ないわね、などと、非難の洪水をあびそうである。私の理論は説得力がないだろうな。

最後に一言だけ言っておく。

男たちを従えて，ばりばり仕事をするキャリアウーマンより，子どもをりっぱに，人間らしく育てる専業主婦に乾杯!!

専業主婦のみなさん!! あなた方は，決して犠牲者ではありません。夫を家庭から操作していると思えばよいのです。家庭を守るという大きな仕事をしているのです。そして，あなたは，「おかあさん」なのです。子どもから，もっとも愛される対象なのです。がんばって下さい!!

反省

その1. 物ものでる女について書き始めたものが，いつのまにか専業主婦賛歌になってしまった。キャリアウーマンさんごめんなさい!!

その2. 支離滅裂，龍頭蛇尾 ……のきわめて，エゴイスティックな文章になり，読者のみなさまをまどわしてしまった。 ごめんなさい!!

その3. 女は子どもを生み育てる者であると簡単に書いてしまったが，当然，男にだって責任はあるのである。母親がいそがしい時には，当然，彼女の手助けをしなければならないのだ。父親としての責任は，はたして当然である。だいたい，子どもの教育を学校任せにしておくのはおかしい。親が子どものしつけをしないでいったい誰がしてくれるのか!! ……長くなりそうなので，ここいらでやめておく。

最後に，(ほんとうに)一言だけ言っておく。[きわめて抽象的なのだが]

【私は，母から，やさしさの中で生きる事を学び，
父から，きびしさの中で生きる事を学んだ。
私の子どもたちを，あなた方が，私を育てたように，育てたい。】 親に対する最高の称賛。

◆ 会議は踊る，オリンピックは回る。

ソ連がアフガニスタンへ侵攻して以来，西側諸国はどのようにしたら，ソ連に制裁がくわえられるかを思考して，日夜会議を開いている。特に，アメリカの鼻息は荒く，一挙に冷戦に突入し，緊張緩和の時代は過去のものとなってしまった。アメリカは，経済制裁もさることながら，オリンピックをボイコットしてソ連に精神的打撃を与えるつもりだ。その条件は，2月20日までにソ連軍がアフガンから撤退しない場合に，今年7月の夏季オリンピック開催地をモスクワから他の都市へ移すか，あるいは延期，中止

するよう国際オリンピック委員会(IOC)に働きかける，というものだ。米国オリンピック委員会も，これを支持している。今までソ連が他国へ侵攻した場合，その地に確固とした地盤を築かない内に，軍隊をひきあげた例はない。アフガンには現在，イスラムゲリラの嵐がふきあれており，2月20日までに政情が安定する可能性はほとんどない。したがってソ連軍も当然駐留を続けるわけで，現段階では，アメリカのモスクワオリンピックボイコットは確実視されている。そして，アメリカがボイコットした場合，ソ連および東側諸国が4年後のロサンジェルスオリンピックをボイコットするのは明白だ。そうなれば，80年代，いや，これから先，オリンピックが世界の国々の参加の下で開かれるのは，きわめて困難になる。これまでも，ナチスの宣伝に使われたり，ゲリラの襲撃にあったり，また人種問題で揺れたりして，オリンピックは常に政治から完全に独立してはいなかった。だが，とにかく，今日まで続けられて来たのである。我々は，世界の国々からあつまって来たスポーツマンが，力のかぎり戦うのを感動して見つめる。そこには，武器を使わない，人間の命と命がぶつかり合う真の戦いがあるのだ。どんな小国のスポーツマンでも，能力があり，そして努力すれば，米ソに勝てるのである。そして，たとえ勝てなかったとしても，オリンピックに参加するかぎり，地球の構成員としての，また，国としての自覚を新たにできるだろう。オリンピックをボイコットするのは，スポーツの戦いから，武器を使う戦いへとエスカレートする危険性をはらんでいる。我々は，2度も，世界大戦を経験しており，戦争の悲惨をいやというほど味わったはずだ。戦場での，戦車や大砲を使った，血なまぐさいオリンピックは，もうこりごりである。

アメリカは，西側諸国のリーダーとして，東側との関係をこれ以上悪化させてはいけない。大国としての体面もあるだろう，また，共産主義に対する憎悪の気持ちもあるだろう。だが，私は，自由を愛するアメリカに，譲歩を求めたい。クレムリンのタカ派が，武力による共産主義革命を信じているのは事実であろう。彼らと平和にやってゆくには，まず，こちらからドアをノックしてやる事が大切だ。自由の女神にできないはずはない。ソ連との関係を悪化させるなら，なぜ，それより前に，イランに海兵隊を送らないのか? イランは人質をとるという犯罪行為をしている。ソ連よりもまだ野蛮だ。とにかく，相手が，そうしたから，こっちも，こうしていじめてやろうという短絡的発想ではなく，相手が何かをしたら，それに対抗するかわりに，ああ，あいつも悩んでいるのだなという思いやりを持って，こちらから何かを与えてやらなければならないと思う。それでも，オリンピックに参加するのは愛国心が許さないと言うかもしれない。それなら，いっそのこと，国旗や国歌なしに参加したらどうか? アメリカ合衆国としてではなく，北アメリカスポーツ愛好会として参加するのである。優勝したら，自分の顔写真を印刷した旗をあげてもらい，おきにいりの曲でも演奏してもらうのである。

175pの最後のオリンピック論に続く。

エッセイ 二編

作：白飛田 桁

① おとなしさの美学

世の中には、自分と同じでないと気がすまないという奴が多勢いる。人がおとなしくしているのが気に入らないというのがその中でも多い。とくに酒の席などでは……

こっちが一人で静かにしていると、やれ乗ってないのだとか、しらけているとか言って批難してくる。いろんなおせっかいもいい所だ。酒を飲んだらバカ騒ぎをしないといけないと誰が決めたのだ。以前、僕もそういうものだと思っていたから無理して騒いだこともある。そのため武田を酔すとおもしろい、などと変なことを言われたこともあった。でも、その時、非常におもしろかった。だいたいおとなしくしているのを批難する奴は、本当のおとなしさを知らないのだ。だから、おとなしくしている僕なんかを理解できなくて、それどころか、ある種の恐怖感を感じる。恐怖のあまり、無理やりドンチャン騒ぎの仲間に入れようとするのだ。

ここで誤解が生じないためにことわっておくが、おとなしい人というのは、何もナヨナヨした行動力のない人ではなく、それどころか、表面上は静かにしているが、中に芯が一本通っているような人のことを言うのだ。

僕は、とてもそんな人ではないのだ（胃がイヨウなんかになるのが何よりの証拠）。でも、他の人よりは良くわかっているつもりだ。

② ウンコの話

ウンコ、それもただのウンコではないから書くのである。読者の中でもバリウムを飲まれた人もいると思うが、そのウンコである。だいたい胃の透視でバリウムを飲むと、後で下剤をくれる。そして大抵の人は何もなく、ただ白いウンコが出るだけなのだが、僕の場合は下剤が少し少なかったのか、最初のうちは良かったが三日たった時のことである。もう、すっかりバリウムは出てしまったものと思っていたのだが、町で便意をもよおした。デパートに入って、当然のごとくトイレへ行った。そしてウンコをした。どんなウンコが出たと思う？

何とニワトリの卵大の球体が三つポトンと（簡単に書いているが、その時はきばりにきばったので、足ががクがクになった）と出たのだ。ちょうど練り消しゴムをまるめたみたいな色彩をしていた。思わずつまもうとしたけど、さすがにやめといた。筒井康隆氏なら喜んだと思うけど、氏も胃を悪くしたことがあると聞くので、もう知っているかもしれない、流してしまうのがおしいから、残しておこうとも思ったが、どうせ掃事のオバハンが片づけるので、これもやめといた。

そして、二度目の透視の時は、事情を話して下剤を増してもらった。もうあんな足ががクがクは御免である。すると今度は下痢をしてしまった。でもバリウムのウンコなので悪臭がない。何か水にといた石コウがドロドロと出るような感じだった。また、この時、気がついたのだが、便器についたバリウムのウンコはすぐ洗わないと、こびりつくのだ。全く石コウと同じだ。石コウは手を荒らすからこれから石コウ細工はバリウムですれば手も荒れなくていいと思う。まさか荒れるようなものを飲ますはずがないのである。

それにしてもバリウム三百ccは大すぎると思う。おっともおいしくないし、ウンコがあんなになるのでは。もっと改良してもらいたい。

最後になぜこんな話をしたかというと、吉行淳之介氏が述べている"男は嫌いな人の前では絶対にその話をしない"とね。

日本人、この非人間的国民

僕が歩けないとする。車いすを使わなければ動き回れないとする。僕は学校に通えるだろうか。六本松から大橋までどうやって行ったらいいだろう。そうなんだ。僕はアパートの2階に住んでいるんだ。まず、どうやって階段を下りようか。おふくろさんにおんぶしてもらうわけにもいかない。仕方がない。僕はほって階段を下りる。下に車いすを置いていたとする。僕はやっとの思いで車いすにつく。車いすを進める。道に出た。まもなくひとつ目の信号。これを左に曲がる。「おっと。」歩道は通れそうにないなあ。ただでさえ狭いのに、○○化粧品だの、○○コーヒーだの看板が道をふさぐ。ふざけやがって。仕方がないから車道を行く。ひやっとした。車がすぐ右を通りすぎる。なんだ、なんだ。今の車、僕の車いすを追い越したすぐ後、左によせて駐車しやがった。ここは駐車禁止だぞ。この道はせまい。仕方がないから道の真ん中を通る。ふたつ目の信号。これを渡ってバス停へ。

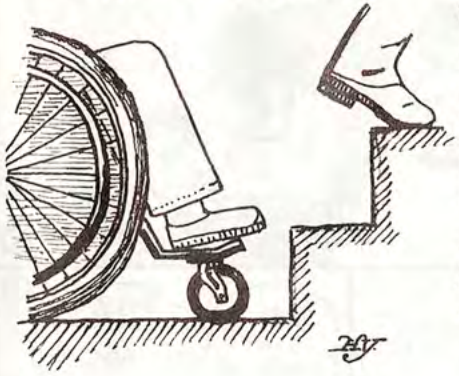
ああ、なんと。独占企業西鉄は介添のない車いすは乗せないのだと(と思うのだが、思い違いならいいが)。そこへ、たまたま九大の友人が通りかかる。ひまだから学校まで送ってくれるという。ありがたい。帰りのことを気にしつつ大橋へ。正門前で降ろしてもらう。「帰りはどうする。何ならまた来るよ。何時ごろだい。」彼は底ぬけにいいやつなのだ。「ありがとう。でも、いいよ。本当に、ありがとう。」頭を下げすぎて車いすから落ちるかと思った。正門を抜ける。早くも段がある。満身の力をこめて5cmばかりの段をこえる。そして、噴水のわきを通り、0号教室へと。ああ。ここへ来て僕は車いすを止めた。目の前に3段それに、建物の入口にまた2段。この大学は、車いすの学生を拒否するのか。どこに行くにも階段が僕を待ち構えているのだ。一応、芸工大も国立。公共の建物だ。なんだいこりゃ。まったくふざけるよ。設計の良識(?)を疑いたくなる。何が斬新なんだよ。カッコだけじゃないか。中身は10年20年前と少しも変わっちゃいないよ。

この辺でやめとこう。車いすを足としている人の苦労は計り知れない。

本当に日本の、いや福岡の建物は、交通機関は車いすを無視している。そういう配慮を見たのは、市美術館くらいだもんなあ。まったくふざけるよ。これじゃ、車いすでは、どこにも安心して、気軽に出かけられないじゃない。こんなの不公平だ。

いい子ぶって、こんなことを書く自分がいやだ。などという自分もいやだ。ただ、思って、書くだけじゃないか。何もしないくせに。

のぼりたいんです。



モスクワオリンピック参加問題について

昨年当初からのソ連の穀物の大量買い付け。アフガニスタンからの弾薬の回収。そして侵攻。ソ連は計画的にやったんだよ。そして、オリンピックも計算に入れてる。そりゃあ、政治とスポーツは独立すべき問題だ。だから、僕は、僕の立場からは、何も言えないと思う。言うべきじゃないとも思う。しかし。僕が"モスクワ"に行く選手だったら、たとえ、今までの苦労がむだになっても、丁重に、辞退申し上げる。

(横)

これは前号で少し書いていたのだが、僕が中学生の頃、ノストラダムスの大予言という本がベスト・セラーになっていた。友達のを借りて読んだのだが、僕はその時から信じている。あの本を読んだ人は「バカな!」とせせら笑っても心では不安を感じたはずだ。ノイローゼ気味になった人もいたほどだ。

しかし、人々は「そんなこともあったなー」としか憶えていないだろう。最近大予言IIという本が出て、またこれも読んだ時は話題になるだろうが、「人類の英知でふせげるさ」などと思ってしまうと非常に危険だ。今までにも、後から考えてみると簡単に避けられた災難が、何回も起こっているのである。

しかし、今度あやまちをしたなら最後だろう。最近の世界情勢を見るとどうだ。あやまちをする寸前の所をウロウロしている。これじゃあ時間の問題だ。ほんの一握りの権力者の犠牲になって滅びるのは御免だ。人間は、そんなに賢くない。人類は21世紀を迎えられないのか……。(T)

シリーズ 彷徨（番外編・MASHのパターン）
まず森編集長よりMASH発令！
うだ
MASH つくろう！
モチ
①
②
こんな版下にするっサ！
③
射植うっん！イッヒヒヒ
ほいで森くんどうしたん、一人で工房でん？
④
イラストもかいてー
原稿かいてネ！
うん！
⑤
こうして Iさんと1年生のEさんとMさんにも原稿がたのまれる。女性が多いことはよいことなのだ。
アーたのむね

仕事の早い武田君は先輩として親切に1年生に写植を指導するのである。先輩として…
ガチャコン
ガチャコン
⑥
版下完成日はいつも工房で徹夜をするのだが…
⑦
ガチャコン
ちょいと私はインベーダーをしてくる。
まえ
仕事のおそいシゲはいつもドタンバであわてふためくのだった。おって、人事ではないのだったが…
⑧
会社設立あと15分
ガッチャンコン
われ！
たすけて〜ナンシーマン!!
というわけで大丸の開店直前に版下を大丸クイックプリントに持ってかけこむのは毎度のことであった。
⑨
ぴゅう〜っ
⑩
印刷がすむとみんなで（時にはモリくんムーンで）製本をするのである。そして出来あがったMASHを見て、我々は自己満足の極値に至るのであった。ここで大切なことはMASH代はモリくんがかなり自腹をきってくれているということだ。
パチン
⑪
モチ できた！
END

㊗がんばっちゃってんライオンズ!

by ケン君

昨年のライオンズはほんなこつ弱かったばってん、ありゃ絶対トレードの失敗ばいたい。1昨年大活躍した真弓とか、その他ライオンズのスター的存在やった基とか、若菜とか、仰の内とか、トレードに出しようもん。それでこの4人はトレード先で大活躍したとに、田淵と古沢は1ちょんつまらんかったろうが。これなんで勝てるわけなかよ。ほんなこつはらのたつ。話は変わるばってん、オレはくさ、大のライオンズファンなんよ。小学校六年の時からずっとライオンズば応援しよっちゃが。小学校六年て言えば、まだ西鉄ライオンズの時代ばい。あんときは、「西鉄の池長です池田パンをどうぞ」のCMに出とった池長がエースでがんばっとった時代やもんね。そのあとくさ、八百長がばれて、永久追放になってしもうたばってん、ほんなこつもったいなか。あの事件がなかったら、身売りとかせんで、まだ、西鉄ライオンズのままやったとにね。そしたら春日台で、ライオンズば、まだ見れたとにね。池長で思い出したばってん、池長と同じころ、むちゃくちゃ期待されてライオンズに入って来たとが、あったと知っとうかいな。今は、プロゴルフで有名になっとうごとあるばってん、ジャンボ尾崎なんよ。あいつは、練習がすかんかったみたいで、ゴルフにうつつをぬかしてしもうた。あいつも池長みたいに成長しとったら、池長がおらんくなっても、安心やったとにね。西鉄が身売りして、太平洋になって、そのあとクラウンになったけど、なんで、オーナーは西武に売ると、もう少しまたんかったとかいね。クラウン最後の年は、川頭位は、たいしたことなかったばってん、若手がものすごのびてきよったけん、次の年に期待がもてたとにね。あの西本さんもマークするチームにあげてくれたとにね。ライオンズが平和台ば、離れて所沢に行ってしまうて聞いたとき、オレは絶対ライオンズのファンとが、やめろうて思うしたとに、いざ、ペナントレースが始まってしもうたら、やっぱり、気になってしかたなかった。朝、新聞ば、ひらいても一番最初に見るとは、やっぱり、ライオンズのことやもん。そりゃそうくさね、10年も、ライオンズばっかし応援しよっちゃもん、そうかんたんに、やめられるわけなかよね。昨年の10月に、テレビで「ライオンズが去ってあれから1年」ていう番組がありよったけん見よったら、その中で、福岡の町でのインタビューがありよったったい。そしたら、ライオンズのことが、気になるていう人が、多かったけん、ものすご安心したっちゃが。オレと同じような人がたくさんおるっちゃもんね。なんかしょうもないことばっかしかいてしもうたけど、最後に一言だけ言わせちゃってん。がんばっちゃってんライオンズ!

◆最後のオリンピック論

2月2日、ついに日本政府も、オリンピックボイコットを決定した。JOCも、これに従うだろう。金メダルをとれそうもないから行くな、とか、ソ連が悪いのだからボイコットも当然だ、とか世間でもいろいろ論争が続いている。人それぞれ、心情や立場、好みによって意見がちがうだろう。しかし、これだけは考えてほしい。オリンピックは4年に1度しかない。今回をのがせば、この日のために練習してきた選手の努力はムダになってしまう。体力が、あと4年後に、今のような力をだせる可能性はうすない。青春は短い。選手にとっては、今年しかないのである。彼らに、見せかけの愛国心による涙だけは、流させたくない。

オリンピックが、モスクワで終わることなく永遠に続く事をいのる。この小論が、最後のオリンピック論にならないように……。

(書いたん:岡田 ヤマト)

編集後記

・知らん間に手書きということになっており、それにとにかくやる気がなかった。つまらん、つまらん、ウンコがつまらん。(T)

・ぬきうちMASH。余白はメモ帳としてお使い下さい。

女性スタッフの方ごめんなさい。無断で出してしまいました。この次はよろしくお願いします。

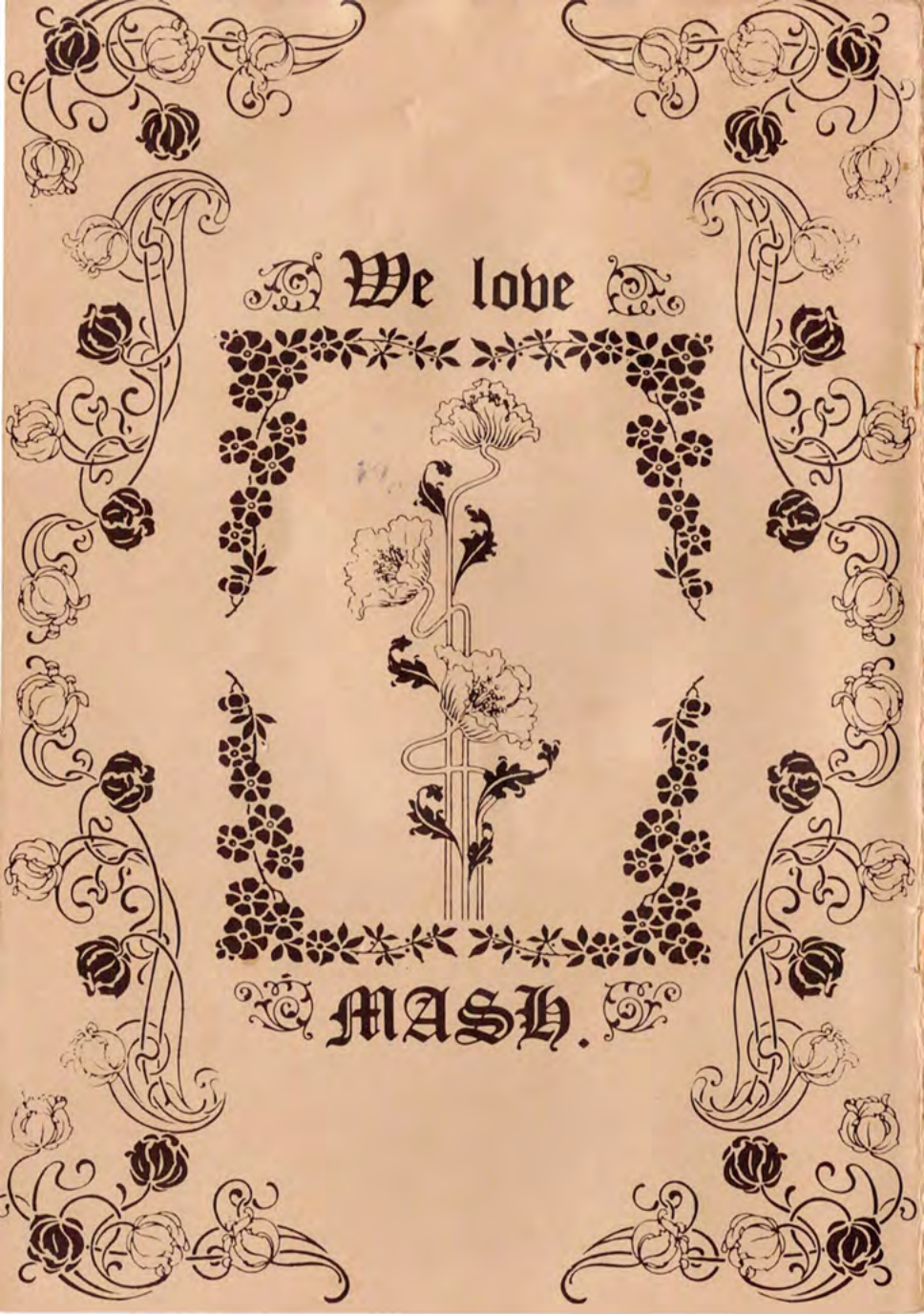
・寒さかあ……(S)(M)

・受験生諸君!来年は芸工大を受けましょう(空)

・タイガースの岡田!!がんばれ!!(岡田より)

・何ば書こうか。……今年も阿蘇に通うぞ。北海道に行くぞ。(優柔不断の模)

企画制作 MASH共同体
印刷 大丸クイックプリント
発行人 森 豊
昭和55年2月発行
ミニコミ誌 MASH


We love
MASH.